ＪＡ自己改革推進レポートについて

令和６年７月２６日
ＪＡ鳥取県中央会

１．ＪＡ自己改革実践状況

（１）ＪＡグループ鳥取の取り組み

①ＪＡグループ鳥取　トップセミナー

ＪＡ鳥取県中央会は６月１８日、倉吉市のエースパック未来中心でＪＡグループ鳥取ＪＡトップセミナーを開催した。ジャーナリストの浜田敬子氏とＪＡ全中の顧問弁護士を務める中島肇弁護士が講演を行った。男女の格差や労働力不足が深刻化する中、持続的なＪＡ組織の発展や不祥事未然防止につなげようと県内ＪＡ･連合会の役職員約１３０人が参加し、意識を高めた。

浜田氏は、性別による無意識の思い込みが持続的な組織の発展の阻害要因になりうるとし、多様な人材を積極的に受け入れ、意見を取り入れていくことが、若い世代や女性など優秀な人材が集まりやすいと訴えた。また、同質性の高い組織は不正や不祥事の発生リスクが高いとし、女性をはじめ多様な人材が働きたいと思える職場環境づくりを心掛けることが組織の発展につながると話した。中島弁護士は「不正を防止・牽制するために管理者はどこを見るべきか」と題し、組織の内部牽制の仕組みを過去の不祥事の事例から考察。取引の実在性確保など、現場を確認し業務フローを把握することが最善の不祥事未然防止になると話した。

ＪＡ鳥取県中央会の栗原隆政会長は「ＪＡ不祥事が大型化する中で、内部管理態勢を再確認し、ＪＡグループの結束につなげたい」と期待を込めた。

②ＪＡ鳥取県中央会　栗原隆政会長　担い手・消費者との対話

ＪＡ鳥取県中央会の栗原隆政会長は７月２日と３日の両日、生産者との対話運動の一環としてＪＡ直売所に訪れた消費者に対してのインタビューや担い手訪問を行い、ＪＡグループの農畜産物の適正な価格形成に対する考えや生産者や直売所に対する要望などの聞き取りを行った。価格転嫁の法制化に向け、生産者と消費者の相互理解に基づく生産・消費の循環と双方向による情報発信につなげる。

消費者へのインタビューは今回が初めてで、ＪＡ鳥取西部直売所「ふれあい村アスパル」、食のみやこ鳥取が運営する「地場産プラザわったいな」で実施。来店者数人に対し、農畜産物の販売価格に関する意見や生産者に対するメッセージなどを聞いた。消費者からは「販売促進イベントで生産者ががんばっている姿を見て応援したいと思った」、「自分で多様な生産者の作物が選択できるのが直売所の魅力」、といった意見があった。

担い手訪問では、ＪＡ鳥取西部日南トマト生産部の岩田部長とＪＡ鳥取中央大栄西瓜組合協議会の村岡会長の圃場を訪れ、生産現場の生の声を聞き取りした。「高品質なものは販売単価が高くても消費者に納得して買ってもらえるような行動変容に期待している」といった声があり、消費者との相互理解の必要性を共有した。

栗原会長は「消費者と生産者の相互理解のもとで価格転嫁の法制化を通じた、持続可能な農業の実現につなげたい」と期待を込めた。７月３０日のＪＡグループ鳥取のトップ広報で、生産者と消費者の相互の意見を県民に向け発信し、共有を目指す。

（２）大山乳業農業協同組合の取り組み

消費者交流イベント「白バラみるくの学校」を開催

大山乳業農協は６月２２日、消費者交流イベント「白バラみるくの学校」を開催した。本イベントは、楽しく酪農や牛乳への理解醸成を図ることを目的に、３・６・９（みるく）月の開催を予定しており、今回は第２回目となった。予約前から注目を浴び、当日は県内外から家族連れなど約１００名が参加した。

イベントでは、牛乳・ヨーグルト工場の見学に加え、酪農家による牛や酪農についての講義、バターづくり体験を行った。講義では、牛乳や乳製品を使ったレシピを多数紹介され、飲むだけでなく料理にも活用してほしいと参加者へ呼びかけた。

参加者は、和気あいあいとした雰囲気で大山乳業の生クリームを使った、バターづくりに挑戦。出来上がったバターは、牛乳と一緒にパン、クラッカーにのせて召し上がっていただいた。参加者からは「とてもおいしかった」「家でもつくってみたい」などの感想が寄せられ、酪農と白バラ製品の魅力を知っていただくイベントとなった。

（３）鳥取県畜産農業協同組合の取り組み

鳥取県生協の「コープ・エシカルフェスタ２０２４」に参加

鳥取県畜産農協は６月２９日、鳥取市の鳥取県立産業体育館で開催された「コープ・エシカルフェスタ２０２４」に参加した。この催しは鳥取県生協の商品におけるエシカル消費やＳＤＧｓへの取り組みについて、生協の組合員に理解を深めてもらうことを目的として開催されている。商品の試食や紹介のみならず、エシカル消費やＳＤＧｓに関わる展示物や体験を通じてエシカル消費を楽しく学べる場となっている。今回は鳥取県畜産農協における飼料米・飼料稲・堆肥散布等の循環型農業の取り組みについて、リブロース焼肉用の試食を通して紹介することができた。

（４）ＪＡ全農とっとりの取り組み

①鳥取県産らっきょう販売セレモニーを開催

ＪＡ全農とっとりは５月２３日、東京大田市場で「鳥取県産らっきょう販売セレモニー」を開催した。

県下統一での初めての取り組みであり、ＪＡ鳥取いなば・ＪＡ鳥取中央と一緒になって、市場関係者に鳥取県産らっきょうをＰＲした。

昨年のらっきょうの販売は、コロナ禍の影響や物価高、先行産地の出荷後ろ倒し等により販売に苦戦した年だったが、本年は他産地との情報交換の実施や、より一層の消費宣伝により販売強化を行った。

②大阪と東京で鳥取すいか販売セレモニーを開催

ＪＡ全農とっとりは、６月７日に大阪市中央卸売市場本場、６月１０日に東京大田市場で市場関係者に向けて鳥取すいか販売セレモニーを開催した。セレモニーでは、上本運営委員会会長や「鳥取すいか大使」による鳥取すいかのＰＲ、試食の提供を行った。

市場関係者からは「甘い、おいしい」と大変好評で、今年も鳥取すいかのシーズン到来を盛大にアピールすることができた。

③木乃実神社豊作祈願祭

ＪＡ全農とっとりは６月２６日、鳥取市の木乃実神社で豊作祈願祭を開催した。果樹生産者、ＪＡ、行政機関、同会職員らが参列し、今年の果実の豊作を祈願した。

当神社には、鳥取県に初めて伝えられた二十世紀梨の原木が本殿に祀られており、毎年この時期に一年間の果物の豊作を願う祈願祭を行っている.。

今年は比較的天候に恵まれ、生育や開花についても概ね順調となっており、今後も順調に生育を続け、立派な果実が育ってくれることを願っている。

（５）ＪＡ鳥取信連の取り組み

ＪＡの農業融資にかかる人材育成支援について

ＪＡ鳥取信連では、ＪＡの農業融資にかかる人材育成について、農林中央金庫と連携し研修会を開催している。

令和６年度は、令和５年度に引き続き農業融資実践力強化研修の第１クールを６月１８日・１９日にＪＡ鳥取いなば湖山本店で開催し、受講生としてＪＡ農業融資専任担当者や本会職員が参加した。第２クールは１０月１６日に開催予定としている。

本研修は、金融仲介機能の発揮に向けて、ＪＡの農業融資を扱う担当者が農家や農業法人など担い手へ「出向く活動」を実践するうえで、担当者として必要となる業務知識や推進話法など実践的な業務スキルの習得を目的としている。

本県は農業近代化資金を戦略資金として推し進めているが、研修内では農業近代化資金の経営改善資金計画書の作成・分析を学習するなど、貴重な研修となっている。

今後も、農林中央金庫と連携し、研修会を開催することにより、ＪＡの農業融資にかかる人材育成を支援していく。

（６）ＪＡ共済連鳥取の取り組み
鳥取県警察へ交通安全資材を提供

ＪＡ共済連鳥取は６月１４日、交通安全資材（カラビナ付２ＷＡＹランタン）の寄贈式を行った。鳥取県警察では、早朝・薄暮・夜間の視認性の悪い時間帯に交通事故が多発している傾向を踏まえて、歩行者が自動車から被害を受けないようライトや反射材用品を身に着ける等の身を守るための行動を推進している。同会は、「カラビナ付２ＷＡＹランタン」４，５００個を鳥取県警察へ寄贈し、この取り組みに役立てていただくことにした。

寄贈式では、山西本部長から鳥取県警察本部山本交通部長へ「目録」の贈呈を行った。山本交通部長は、「昨年は歩行者が当事者となる交通事故が８４件発生した。この度寄贈いただいた交通安全資材を交通安全講習等の機会を通じて効果的に活用させていただきたい。」と謝辞を述べられた。

以上